

## 再説：衆議院議員に血液型の特徴が見られるか(II)

動物行動学者 竹内久美子に答える(2)  
 浮谷秀一・大村政男・藤田主一  
 (東京富士大学・日本大学・日本体育大学)  
 Key words: 血液型 小選挙区 当選回数

目的 動物行動学者 竹内久美子は『小さな悪魔の背中の窪み』(新潮社, 1994)のなかで、郭公の托卵行動を描き、郭公と宿主との間のミクロの世界における攻防を記述している。彼女はある血液型の人にある病気が多いということの謎が漸次明らかにされていくことは、血液型と気質・性格の謎を解くことにも通じて実に興味あることだと述べている。

竹内は前述の自著のなかで「政治家にとっての最大の宝は健康だ」と明言し、病気に強いO型の国会議員(かれらは当選回数も多いのだ)に触れている。ここではさらに多くのデータを踏まえて竹内の構想を検証しようと思う。

方法 竹内久美子の前掲書、藤田紘一郎の『パラサイト式血液型診断』(新潮社, 2006), 『政官要覧』(セイサクジハウ・アイ・ピー社, 平成 19 年春号), その他各新聞社発行の資料を参考にしている。現在の衆議院議員はあの小泉純一郎(A型)の「郵政解散」後の総選挙による当選者である。

竹内久美子 竹内は前掲書のなかでおおむね次のように述べている。「首相(竹内は総理大臣と書いている)にO型が非常に多いのはひとつには母集団である衆議院議員にO型が多いためなのだ。加えて偶然も作用しているだろう。21人中12人という数字(注:戦後の首相である東久邇稔彦から細川護国までの21人)は、実はそれほど、驚くべきものでないかもしれない。だが、事をそう簡単に片付けてしまっはいけない。まだなにか他に理由があるような気がしてきた。なぜ首相にO型が多いのかということをもっと気合を入れて追求してみることにしよう。私(竹内)が次に注目したのは、衆議院への当選回数である。それによって血液型分布に違いが出るかということである。」次に竹内は、前掲書に衆議院議員の当選回数と血液型を議員の実名とともに掲載している。(P.38~39)。そのなかには18回にもなるのに選挙民の前で土下座して投票を切願したO型候補も見られている。

いのである。他方、A型は病気がちである。このことは自分で真田虫を飼っている有名な「カイチュウ博士」の藤田紘一郎(東京医科歯科大学名誉教授)の『パラサイト式血液型診断』(新潮社, 2006)によっても明らかにされている。

藤田紘一郎 竹内は、生命力の強さ、身体的な強靭さが性格的な強さに通じると考えるが、寄生虫学の専門家の藤田紘一郎も同じ見解を持っている。藤田の所説を前掲書のなかから取り出してみよう(要約)。O型の人には病気に罹りにくいために開放的で自己主張が強くなる。職業で調べてみると面白い。男性の国会議員にはO型が多く、特に歴代の首相のほとんどがO型である(注:戦中戦後の首相東條~福田まで32人、血液型不明者1人、31人中O型16人、51.6%。ほとんどというのはオーバーだ)。女性ではクラブのママや料亭の女将にO型が圧倒的に多い(注:能見俊賢によれば東京のホステス474人中O型は169人、35.7%。参考になるかも)。

竹内や藤田の構想は、O型は病気に強い、そこで性格的な強さが生まれる、A型は病気にかかりやすい、人間関係からくるストレスにも弱い、そこでA型の人には周囲の人たちと協調するような性格になったのではないか——というスタンスをとっている。性格形成的には納得できないこともないが、「狂犬病に罹った犬が増えてくると汁粉屋が儲かる」という脈絡と同じである。

Table 1 第36回総選挙による議員

当選回数	A	B	O	AB
10	3	2	9	1
11	4	2	1	2
12	1	2	3	4
13	1	3	4	
14	1	1	6	1
15	1	1	3	
16				
17	1			
18				
合計	12	11	26	8
%	21.1	19.3	45.6	14.0

Table 2 第39回総選挙による議員

当選回数	A	B	O	AB
10	7	2	8	1
11	3		3	1
12		1	2	2
13	1		2	
14				
15		1		
16		1	1	
17			1	1
18			1	
合計	11	5	18	5
%	28.2	12.8	46.2	12.8

(注)上記の表の単位は人数

Table 1は第36回総選挙で当選した議員(10回以上)についてのまとめである。57人中26人(45.6%)がO型である。次のTable 2は第39回総選挙で当選した議員(10回以上)についてのまとめである。39人中18人(46.2%)がO型である。

O型の老人は元気であると竹内はいう。病気に冒されにく

Table 3 郵政解散後の総選挙による議員(単位は人数)

当選回数	A	B	O	AB
1~5	125	98	92	42
6	12	12	10	4
7	4	4	7	4
8	9	2	2	1
9	6	3	7	0
10	3	0	2	2
11	1	0	1	0
12	2	0	1	2
13	1	1	2	
14	1			
15	0			
16	1			
合計	165	120	124	55
9回以下(%)	156(35.1)	119(26.8)	118(26.6)	51(11.5)
10回以上(%)	9(45.0)	1(5.0)	6(30.0)	4(20.0)

結果 Table 3は、現在の衆議院議員の人事録からのまとめである。9回以下の議員444人、10回以上の議員20人、合計464人になる。10回以上の当選者のうちO型は6人(30.0%)にすぎない。しかし、A型は9人(45.0%)もいる。左コラムのTable 1・2にあるO型の実態と比較すると、O型の凋落は著しい。なぜO型が消えたのか。(1)寿命が尽きたか、(2)小泉が老人たちの立候補を制止したせい、(3)O型からA型の時代に替わったのか、(4)竹内・藤田のO型に関する論理が間違っているのか。血液型と人間行動との関連研究は魅力があるがどうも牽強附会・我田引水の嫌いがある。

(Ukiya Shuichi, Ohmura Masao, Fujita Shuichi)